

柿生文化 (第14号) の表紙デザイン。中央には大きな「柿生文化」の文字があり、その周囲には「柿生文化」の文字が繰り返し配置されている。

平成21年9月18日  
川崎市立柿生中学校  
郷土史料館情報・研究誌  
第14号

## 柿生 人物誌

# 柿生で育った獅子てんや氏



校長 板倉 敏郎

獅子てんや、本名 佐々木久雄 氏は大正13年生まれですから85歳前後の方は、柿生での獅子さんとの生活をよくご存じかと思えます。

一般的には、「獅子てんや、瀬戸わんや」と聞けば、お分りになりますが、あの漫才界の重鎮でいらっしゃる方です。

ちょっと前の川崎市の文化情報誌「クォーター一かわさき」に「獅子てんや」さんが『どういわけか川崎とは縁が深くて』という文を載せていらっしゃり、小さいころ柿生で生活されていたということ思い出しました。

さっそく、その情報誌を手に入れましたので少々ご紹介いたします。

獅子さんは、お母さんの実家が高石にあった関係で11才から14才の春まで柿生にいらっしゃり、昭和12年に義胤尋常高等小学校を卒業されました。漫才の才能はこの当時からあったようで修廣寺の縁日で漫才をやったそうです。最初の柿生の印象は、とにかく何も無かったということで、駄菓子屋が柿生駅のそばに一軒だけしかなく、家から20~30分もかかったそうです。

東京の学校ですと金ボタンのついた制服ですが柿生は着物にゴム靴、ワラ草履。子供同士の呼び方も男子も女子も「オレ」でえらいところに来たと思ったそうです。当時の柿生の自然は、鬱蒼とした山ばかりで谷間に集落があり、山には田やイモ畑やカボチャ畑があり、野兎や鳥などが沢山いて、田んぼにはドジョウやタニシ、蛙やナマズ、ヘビも沢山いたそうです。当時群生していた篠竹を使って太い針に蛙を仕掛けておくと翌朝ナマズがかかっており、家で煮たり空揚げにして食べたそうです。

戦前まで人々の生活は、あまり豊かではなく、味噌も醤油も家で作り、山に入って薪をとり、水道もなく井戸水で、お風呂の水を張るのは子供の役目だったそうです。しかし自然との接点が確実にあって人間らしい生活をしていたという実感が大変強かったそうです。

昭和52年にまた柿生に引っ越してきたのですが40年ぶりの柿生は開発でずいぶん変化したそうです。獅子さんは、自然に触れ合うことの大切さ、自然と人間のバランスのとれた心のふれあいのある地域社会ができてほしいですと語っていらっしゃいました。



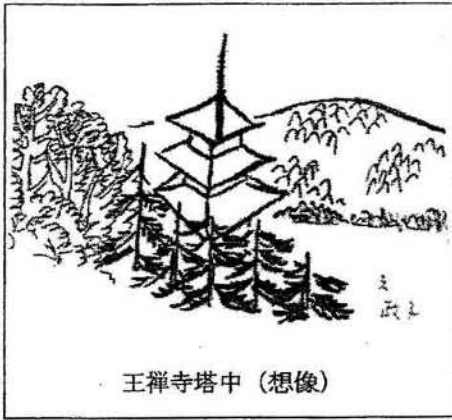
(昭和13年頃の柿生村のこどもたち)

シリーズ 「麻生の歴史を探る」

第13話

王禅寺その2 —古王禅寺—

王禅寺には、慶安 3(1650)年快尊上人という方の時代の「聖観世音菩薩法度の記録」、俗にいう王禅寺縁起があり「人皇 46 代孝謙天皇の御代、天平勝宝元(757)年、天皇御霊夢により当村二本松の谷間より一寸八分の観音像を発掘、伽藍を御創建あり」の伝承があります。



王禅寺塔中 (想像)

二本松というと現存する宝暦 12(1763)年の王禅寺絵地図(志村家所蔵)で見ると、現王禅寺公園付近、三井第三、山百合町会の辺りで、この辺りを昔から「光ヶ谷戸」と呼びました。ここから今の王禅寺観音堂の本尊、聖観世音菩薩像(唐土鑄一寸八分)が光芒を放ち発見され、そこにお堂を建てたとされています。

当初、飛鳥の地に根をおろした佛教は、次第に一般民衆に広まっていき、天平 13(741)年天武天皇は、諸国に国分寺造立の詔を出しています。推察するに孝謙天皇の御霊夢(757)は、その一連のもので、当時この地方で朝廷との関わりがある氏族がいたことを物語っています。

さて、ここで考えることは、西暦 757 年というと、前稿稲荷前古墳(5~8世紀)周辺に文化を持った人たちと御霊夢は無縁であったかということです。これらの人たちは苧麻を織り、万葉の歌を詠み、郡衙を作り、古代鶴見川文化を作り上げていました。これらの人たちが佛教を奉じたとしても不思議ではありません。想像をふくらませれば、朝廷と気脈を通じた氏族が、佛像を埋め、夢見を告げれば、都が遠いこの地にも勅願寺が建てられたと推測できます。

話は少しそれますが、昭和 49 年に王禅寺の焼却炉から排出された廃液が周辺水田を汚染し、「カドミウム公害」と騒がれたことがありました。ところがその公害は、遠く大場町に及び、鶴見川水系を汚染してしまったのです。大場町というと稲荷前古墳のあるところで、実際に現在ある水系を辿ってみますと、もみの木台、すすき野、虹ヶ丘、現王禅寺、行き着くところは二本松、光が丘、そして多摩川、鶴見川の分水嶺である八幡の森(海拔 120m)に至っています。今は全くその面影はありませんが、当時は深山幽谷、山を崇めた当時の人たちには聖地で、孝謙天皇御霊夢の伽藍は、国分寺令を受けての稲荷前周辺豪族の私寺だったのではないのでしょうか。



聖観世音菩薩立像 常楽寺 (川崎市文化財図鑑)

文、小島一也氏

中野正裕 先生の研究報告 I

# 奄美の動植物

今回で奄美大島を訪れるのは2回目になります。前は1泊しかできなかったため、ハブ、大島紬、マングローブといった観光コースしか見ることが出来ませんでした。実は今度もそんなに滞在する予定はなかったのですが、皆既日食による混雑で航空券がとれずに少し多めに宿泊することになりました。

## 天然記念物など

奄美大島のに位置する湯湾岳周辺は亜熱帯の原生林が残されている地域です。山には巨大なシダのようなヒカゲヘゴの群落、海沿いにはパイナップルのような実をつけるアダンなど、この辺では見慣れない植物が見られます。

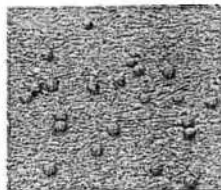


←  
ヒカゲヘゴ

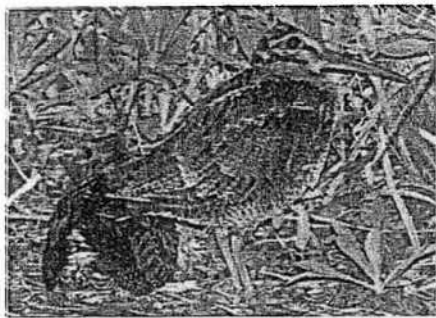


→  
アダン  
おいしそうだが普通  
食べない

皆既日食観察の日以外は昼も夜も山の中に入り、いろいろな動植物を観察した。その中でも絶対見てみたいと思ったのは特別天然記念物のアマミノクロウサギです。聞くところによると最近生息範囲が広がっているらしいのだが、それは個体数が増えたからかも知れないし、生活できる環境が悪化して追い出されたのかも知れない。帰らなければならない日の前夜にやっと目撃した場所も、今まであまりいなかった場所でした。



→  
アマミヤマシギの  
親子



←↑アマミノクロウサギと箕  
同じ場所にする習性がある

アマミノクロウサギを見たいために毎日通った夜の山道でアマミヤマシギを何回か見かけました。どちらも放し飼いのネコなどに食べられることがあるそうです。また、水場では左の写真のオットンガエル（お父さん）がいて、真っ暗な山の中で突然お父さんのような声を出して驚かせてくれました。



奄美だけでなく柿生にも絶滅が心配されているような貴重な動植物がたくさん生息しています。今度機会があれば柿生の自然についても触れてみたいと思います。



## イスラム世界の価値観と意識を知る

第13回 カルチャーセミナー (8月28日開催)

第13回柿中カルチャーセミナーは、今年3月に3年間の日本人学校の任期を終え帰国された坂東修氏(パキスタンのイスラマバードより帰国 現、東倉小学校勤務)と福山 創氏(サウジアラビアのリヤドより帰国 現、平小学校勤務)により「イスラム世界とその現状」と題して講演をいただきました。



西アジアの国々は、戒律の大変厳しいイスラム教と密接なつながりをもった固有の文化をもっており、飲食や衣服、生活の隅々にわたって厳格な決まりがあります。

日本に対しては、アジアの一員であり、産業技術や経済の先進国として大変友好的であるそうです。

当日は、約30名の参加者が講演に熱心に耳を傾けていらっしゃいました。

### 郷土史料館「史料」の寄贈・寄託のお願い

22年に完成する本校の「郷土史料館」に収蔵する柿生・岡上に関する歴史的資料を探しています。ご自宅で保存されている史料(古文書や生活道具類)でお譲りいただけるものや、一時、お貸しいただけるものがございましたらお知らせください。しっかりとした管理体制で収蔵します。よろしくお願いたします。

### ◎処分しようとしている 生活古民具や古文書をお譲り下さい

#### このような史料はありませんが

- ◎古代の「縄文土器・弥生土器」「石器」「土師器」「須恵器」
- ◎江戸時代の「検地帳」・「水帳」・「五人組帳」・地域の「絵地図」
- ◎江戸時代の「高札」(慶応4年の太政官布告「五榜の掲示」など)
- ◎江戸時代の寺子屋や私塾で使用した教科書・手本「各種往来物」
- ◎江戸時代の「藩札」「通行手形」
- ◎明治期発行の「地券」 ◎明治期の「自由民権運動」史料
- ◎明治・大正・昭和(戦前・戦中)の「国定教科書」
- ◎小型の農具「千歯こき」「備中鋏」「からさお」
- ◎各時代の「古銭」「生活古民具」(矢立て・印籠・火打ち・鏡・装束など)
- ◎その他各種史料「各種古文書類」「美術品」

寄贈・寄託していただける史料がありましたらご一報ください。

柿生中学校 044-988-0004 黒川まで

町内会・自治会を通してお願い文を配布したり、柿生郷土史料館設立準備委員が直接、地域をまわり、お願いにあがります。ご協力お願い致します。